

# 農業経営部会通信

# 22号

## 今月の例会報告



## 酪農技術を現場で学ぶ！釧根農業経営部会との合同例会

11月1～2日、同友会くしろ支部の「釧根農業経営部会」と合同で、酪農現場の技術を学ぶべく、道東の浜中町・別海町・中標津町へと赴きました。

1日目は、浜中町農業協同組合の酪農技術センターを訪問しました。農協としては全国初の、土壌や飼料、生乳の分析施設を開設。感覚の酪農から、分析に基づいた酪農へと農協をあげて取り組み、分析結果に基づき、肥料開発や石灰の現物支給など組合員のサポートを科学的に行っています。

2ヶ所目は、別海町の(有)中山農場を訪れ、AI機能搭載のDeLavalの搾乳ロボット、自動哺育ロボットを見学しました。

夜は、勉強会を行い、(有)中山農場 中山勝志社長、とかち支部からは(有)福田農場 福田博明社長の実践報告がありました。

2日目は、中標津町の(有)希望農場を訪問。同社は、24頭の搾乳を1周16分間で行うことができるアジア初のDeLavalのロータリーパーラー型搾乳ロボット「AMR」を導入しています。同社 佐々木大輔社長は、「社員が能力をさらに発揮できるようにするため、搾乳ロボットの導入を決めた」と語り、企業づくり・人づくりの観点での機械や新技術の活用について学びました。

両支部あわせて約25名が交流をしながら学びを深めました。



↑ 別海町・中山農場にて



↑ JA浜中・酪農技術センター



↑ 牛をテーマにしたゲストハウス ushiyadoで報告例会を開催(中標津町)



↑ 中標津町・希望農場のロータリーパーラー型搾乳ロボット



## アウトドア企業パタゴニア 食の分野への参入から学ぶ

11月2日(金)、農業環境グループ企画の例会を30名で開催しました。同グループでは持続可能な農業を目的とした環境整備のための勉強会を開催しています。

今回は、パタゴニア プロビジョンズ マネージャー 近藤勝宏氏をお招きしました。同社は、環境危機に警鐘を鳴らし、ビジネスを通して課題解決に取り組むアウトドア企業です。2016年に食料品事業に参入。環境へ最もインパクトを与える産業の一つを「食」と考え、オーガニック素材を使い、持続可能な農業や漁業を支援する自社ブランドの食料品を展開しています。現状ではアメリカ本社で作られた製品を輸入し日本で販売していますが、近藤氏は「オーガニック農場の認証制度や日本製の商品づくりにも取り組みたい」と語りました。



## 北海道・富良野でメロンを直販 寺坂農園のダイレクトマーケティング

11月26日(月)の農業経営・法人化グループ企画の例会には、寺坂農園 寺坂祐一社長にお越しいただきました。同社は、メロンの通販を中心に野菜、ドレッシング等の販売も手掛け、ダイレクトマーケティングという顧客と直接つながる販売手法を行っています。講演ではダイレクトマーケティングで行っている具体的な取り組み(売上の考え方、キャッチコピーのコツ、情報発信の手段)を解説。「他社と圧倒的に違うオンラインの商品は中々つくれない。メロンは名産地が全国にあり、どこの産地も美味しい。自社は、ダイレクトマーケティングでレッドオーシャンにぼつりと浮かぶブルーアイランドを目指している。」と語りました。



## 30周年特設サイト インタビュー記事が18社 掲載中

部会設立30周年特設ページ「TOKACHI HARVESTERS」が十勝毎日新聞電子版の「農+ビジネス北海道」内で連載中です。現在18社が掲載中。週1回メンバーのインタビュー記事が掲載されています。

▼「TOKACHI HARVESTERS」(勝毎電子版「農+ビジネス北海道」内)  
<http://agribiz-hokkaido.jp/tokachiharvesters/index.php>

勝毎の農業専門サイト

農+ビジネス北海道

北海道中小企業家同友会とかち支部

農業経営部会 会員紹介企画